優秀種つくるまでの組合活動

うさぎは早く大きくなり、しかも毛皮が優秀で、産子羽数が多いことが最も要求されます。そこで、昭和十三年五月、農林省大宮種畜場から種うさぎ三十四羽の払い下げを受け、十八年に県種畜場からさらに子うさぎ五十羽の払い下げを受けました。また、血液の更新をはかる目的で、勢多郡から子うさぎの導入をして改良に努めました。当時のうさぎは、大きくなっても四、五キログラムしかならないので、二十八年以来秋田県から大型種（二貫目うさぎ）の成育うさぎや子うさぎを導入して、大型種の改良普及に専念しました。しかし、大型種は毛質が少し悪いので、長野県から毛質の良好なものを導入し、大型種と中間種の交配を基礎にして改良を加え、現在は成育うさぎ（生後一カ年）で体重六キロから七キログラムに達し、しかも、毛皮質の優秀なものをつくりだすことができるようになりましたこのため、群馬県の種うさぎは全国で最も優秀であるが、なかでも、甘楽町の種うさぎはすぐれているとの定評を受けています。

甘楽町

うさぎ飼育の現状と
今後の見通し

◇登録羽数◇

現在、町には群馬県養兎農業協同組合甘楽支部があり、五十四名の組合員がいます。これらの組合員が飼育している種うさぎの登録数（十二月一日現在）は、基礎登記四十三羽、予備登録十一羽、本登録八十一羽、子登記四百六十六羽（四月一日から十二月五日まで）です。最近は、県内外から登記子うさぎの注文が多く、とても出荷が間に合わない現状です。

◇毛皮の需要◇

日本における毛皮の生産は昭和二十八年ごろから減少しつつあり、輸出するのには足らず、現在は国内消費のみです。そこへ最近、毛皮類の需要が急増してきたので、生産が間に合わぬ状況です。

◇兎肉の需要◇

食肉加工品の生産は増加する一方であり、ハム、ソーセージ等の加工には、うさぎ肉がなくてはならない状況で、うさぎ肉の需要は増加する見込みです。

ちなみに、十二月七日現在のうさぎの相場は、甘楽町集荷所渡し一キロ当り百二十八円（四十八掛）です。

◇種うさぎの需要◇

早く大きくなって、しかも、毛質の優秀のものを生産するようにに改良を加えていけば、種うさぎの販路はますます増大される見込みです。

【県養兎組合指導部長萩原雅由氏（白倉）の資料提供】

三羽が一等賞になる
県種うさぎ共進会で

三十六年度の県種うさぎ共進会は、十二月七日前橋家畜市場で行なわれ、それぞれ優勝をめざす六十羽の種うさぎが出品されました。

この日、甘楽町からは十羽が出品され、一等に三羽、二等に五羽、三等に二羽と全部入賞する好成績をあげ、本町の種うさぎの品質の良さを惜しみなく誇ることができました。

入賞者は次のとおり。

（敬称略）

一等	高橋　寛	（小幡）	
〃	吉田　清	（上野）	
〃	門倉　万吉	（天引）	
二等	萩原　雅由	（白倉）	
〃	高橋　茂	（小幡）	
〃	畑口益次郎	（小川）	
〃	萩原　吉則	（白倉）	
〃	萩原　輝一	（白倉）	
三等	山田みさを	（白倉）	
〃	吉田　ヨシ	（天引）	

秋畑A・三年連続優勝
＝甘楽町正月駅伝＝

第三回甘楽町一周駅伝は例年どおり元旦に行なわれ、秋畑Aチームが三年連続優勝を成しとげました。

この日の天気はくもり、のち雪で寒く、選手諸君にとって決して良いコンディションではなかったが、熱と若さの心意気で熱戦を展開し、沿道に立ちならぶ応援者の期待に十分こたえてくれました。

みなさん、甘楽町の平和と発展もこのレースのように心を合わせ、手を組んで築きたいものです。

順位は、次のとおり。

優勝　秋畑A（田村誠、浅香美和、田村昭、中野賢二、浅香正弘、田村正男）

二位　秋畑B、三位　小幡A

四位　梅沢B、五位　福島

六位　新屋、七位　小幡B

八位　梅沢A、九位　役場

成人式を迎えた人へ

教育長　巖　良勝

「自分は今から心掛けて、五、六十才になったらあくせくしないで暮らしていきたいと思っています。」

その青年は一通りの用件がすんだ後雑談に移り、その末に自分の家の生活向きなどを話し、色々今後の計画を得意気に述べた後、前記の言葉をいった。

「君はね、ほんとにいい意見や計画を持っている。君の様な青年も、他にもいると思う。しかし、昔の青年もそうであった。君の親も、隣りのおじさんも、さらに、村のすべてのおじさん等も、みんな若い時代には、君が考えたごとく考え、計画したものだ。そして、それがほとんど実現出来ない。私は、どうか君だけでも、今の計画をもり立てて実現してもらいたいとおもう。」と暗々裡に自分一人が立派であることに思い誇らし気にしていることにふれると共に「この言葉を忘れないでもらいたい」と申し添えた。

青年時代に、現状にあきたらず理想を求め、計画を立てるのはもちろん大切なことであるが、それは前記のごとく「そこまではだれでもする」れもこれもと他の事に欲望をはせて、このくらいは趣味として、このくらいは遊びとして、着る物ぐらいは人並にという様に、「このくらい」あるいは「人並に」と考えはじめると結局、人並の事ばかりになって、人並に年をとってしまう。更に人並にという事が、たいていは他人の良い方面にのみ目をつけている事実と、よほど遅れていても人並である事実とを念頭においてわき目をふらず進むことが成功への道だと思います。人の顔が皆ちがうように、人々の心も千差万別です。しかし、同じ様に目が二つ、口が一つ位置に備わっているように、心の持ち方、向い方も大体同じであり、能力にもほとんど大差はない。心をどこにすえ置くか、どれだけの実行力があるかによって将来がさだまる。そして、この心の定め方を動かさない事、計画を着々実行する事、これらが幸福な生活の基本でもあります。

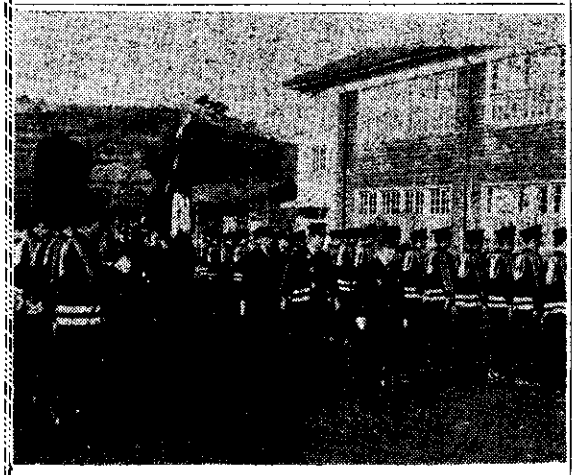
めでたく成人式を迎えた方々のために、なにを申し上げたら適切であるかは、大変むずかしい事でありますが、私なりに、時には思い出してもらいたい事と存じまして、皆さまのご一読を望む次第です。

ガンはこわい病気

ガンは出るものはれものののうちで一番恐ろしい病気です。注射や飲み薬でも効き目がなく、早期発見して手術をする以外には、今のところ手の施しようがないといわれています。

ガンのうちで一番多いのは胃がんで、四十才から六十才ぐらいの人がかかりやすい。ふだん胃病に悩まされている人は、レントゲンをかけてみる必要があります。胃腸薬を飲んだりして自分で気をつけるだけでは危険です。

乳ガンは、女性にとって、胃ガン、子宮ガン、肝臓ガンについで多くかかる病気で、早く発見するには、日ごろ自分で乳の形を知っておくことが大切です乳の形が変わったり、乳房の皮ふが変化したときは、すぐ〝者〟にかかるようにしましょう



出初式

清らかな新春の朝、いてつくような冷めたい空気をつんざいて鳴りわたるサイレンと共に、消防車が小幡中学校校庭に集まりました。一月六日、当町消防団の出初式が行なわれたのです

現在、当町の消防団の陳容は野中清輝団長以下二百三十四人の団員と、消防自動車八台、可搬ポンプ（台車付）二台です。この日、これらが全部集合してことしはじめて町長の検閲を受けたわけです。

これからはますます寒くなり火事が多くなります。いかに精鋭な消防団でも、住民全体の協力がなくては、火の魔はふせげません。みなさん、ことしは火事を出さぬぞと心をひきしめましょう。

万場～富岡線工事に着工

県道万場～富岡線（第一次として那須から小幡まで）の開発は長年の懸案でしたが、一月十日、小幡から着工しました。この延長は約四千四百メートル、幅員五・五メートルで、完成後は、奥地資源開発の重要路となります。

ガス・パイプ布設に着工

新潟（がた）から東京までガスを輸送する帝国石油のパイプ布設工事は、一月十日、天引地区から着工されました。

これが全線完成し、ガス輸送が始まれば、私たちの家庭にも希望に応じてガスを供給してくれることが約束されています。関係者の協力をお願いします。

あなたの胃も一一七表

胃袋の大きさは、だいたいおとなの人の靴くらいあり、厚い筋肉の袋になっていて、その下側は、健康な人ならおへその少し上に落ち着いています。

食物が胃にはいると、その出口が閉じられ、胃袋が伸びたり縮んだりするわけです。一生の間に胃を通過する米の量は、なんと七千十キログラム（俵におすと百十七俵）になります。このほか、麦類は三千八十キログラム、いも類二百五十キログラム、魚貝類千五百八十キログラム、肉類百六十キログラム、野菜類三千八百六十キログラムとまさに驚異的な量で、人が生まれて乳を飲み始める日から臨終の日まで、胃は休みなく働きつづけています。ですからむやみに食べたり飲んだりすれば、たとえ丈夫な胃でもくたびれてやがて病気になってしまうわけです。

どうか、これらのことを知って、胃をむりに弱わらせないでください。